『魚まつり』に取り組んで

相馬原釜漁業協同組合婦人部
宍 戸 高 子

1．地域の概要

相馬原釜漁業協同組合は、福島県の北部、相馬市にあり（図１）、沿岸の漁船漁業においては、本県有数の水揚港である。また、活魚出荷でも名高い漁港であり、ヒラメ等資源管理も行っている。

平成９年３月末現在では、正組合員は５０１名で、主な漁業種類は７トン未満の小型船による固定式刺網、延縄、船曳網、流し網、カゴ漁業等と、１９トン以上から４８トンの漁船による沖合底曳網漁業である。水揚金額は５５億６千５百万円であり、農業と同様、当地域の重要な基幹産業である。

2．活動グループの組織と運営

私達の婦人部は昭和２９年に設置され、現在の部員数は２８２名で、役員は、部長１名、副部長７名、会計２名、監事１名であり、漁業形態別に６つからなる下部婦人部より選出されている。

県内漁協最多の部員数であることから、下部組織との密接な連携と融和を第一に、漁協運動への参加協力を惜しまず、親組合の事業計画に基づき、積極的に活動を続けている。具体的には、貯蓄推進運動や合成洗剤追放運動はもちろんのこと、研修会の開催、恵比寿講祭や各種会合への参加、そして魚食普及としての『魚まつり』の取り組みである。

3．実践活動課題選定の動機

『魚まつり』は、平成２年７月に、青壮年部が当漁協魚市場で開催したことが始まりである。そもそも、当漁協魚市場に水揚げされる魚の多くは、大都市の中央市場への出荷が多く、それゆえ、「地域の人々、または、近隣部の人々は当漁協の魚を知って食べているのか？」そして、消費動向についても、「自分達で地域の方々へ直に触れて、また、売れば、何かを得ることがあるのでは。」との思いからでした。実際のところ、今まで漁業者は、魚を獲ることには努力するが、魚の流通機構、消費者のニーズ、魚のＰＲ等については、他人まかせと云っても過言ではないくらい無関心であった。

産直という言葉を安値と理解しかねないほど、消費者対策は婦人部も含めて、二の次であった。

これらのことがきっかけとなって、当漁協では、平成３年度から、漁協、青壮年部、婦人部が一体となった『魚まつり』を開催し、本格的に産地における消費拡大に取り組んでいる。

写真1　ホッキ飯コーナー

写真2　大鍋を使った海鮮汁コーナー

写真3　イベント・鮭のつかみ捕りコーナー